

笑いの芸術

野村万作・萬齋

狂言公演

— 萩大名 — 大者 野村 万作

— 文 荷 — 太郎冠者 野村 萬齋

— 瘦 松 — 山賊 石田 幸雄



人間国宝
野村 万作



野村 萬齋



野村 裕基



石田 幸雄

とき

令和8年 **10月31日(土)** 開場 午後2時 開演 午後3時

ところ

東京エレクトロンホール宮城 大ホール

入場料
(全席指定)

S席 6,000円^{税込み} A席 4,500円^{税込み}

学生席(U-25) 1,500円^{税込み} ※25歳以下の学生の方に限ります。

チケット発売日

令和8年6月26日(金) 午前10時～

※学生席は東京エレクトロンホール宮城のみでの販売となります。ご購入時学生証をご提示ください。
※未就学児童のご入場はご遠慮ください。

プレイガイド

- 藤崎 ●東京エレクトロンホール宮城【午前9時～午後6時 毎月第二水曜日 休館】
- 河北チケットセンター TEL.022(211)1189【平日午前10時～午後2時】
- チケットぴあ(Pコード: 542-166) ●ローソンチケット(Lコード: 21617)

お問い合わせ

- 東京エレクトロンホール宮城 / TEL.022(225)8641
- 河北新報社 事業部 / TEL.022(211)1332【平日午前10時～午後5時】

※東京エレクトロンホール宮城では、インターネット・電話予約を受付けております。チケットは、最寄りのセブンイレブン又は東京エレクトロンホール宮城の事務室窓口でお引き取りいただけます。(https://miyagi-hall.jp/)

狂言

文 荷

太郎冠者 野村 萬齋

主 高野 和憲
後見 野村 裕基

後見 内藤 連

狂言

瘦 松

山賊 石田 幸雄

女 中村 修一
後見 高野 和憲

— 休憩二十分 —

狂言

萩大名

大名 野村 万作

太郎冠者 内藤 連
茶屋 深田 博治
後見 野村 裕基

解説 野村 萬齋

※出演者は予告なく変更になる場合がございます。

主催

公益財団法人 宮城県文化振興財団
株式会社 河北新報社

共催

芸術
銀河

みやぎ県民文化創造の祭典
実行委員会

あらすじ

狂言

萩大名

はぎだいみょう

近々都から帰国することになった田舎大名が、太郎冠者の案内で、とある庭園に萩の花見に出かける。風流者の亭主が、来客に必ず一首所望することを知っている太郎冠者は、「七重八重 九重とこそ思ひしに 十重咲きいづる 萩の花かな」という聞き覚えの歌を大名に教えておく。見事な庭を楽しんだ後、いよいよ歌を詠むことになるが、大名は…。

秋の風情豊かな庭を舞台に、豪快な大名と繊細な和歌の世界のギャップが笑いを誘います。三人の軽妙なやりとりをごゆっくりお楽しみください。

狂言

瘦松

やせまつ

丹波の国(現在の京都府・兵庫県あたり)に住む山賊が、最近稼ぎが悪いので、今日こそ何とか獲物を得たいと谷間に隠れていると、女が通りかかる。山賊は長刀を振り上げて女を脅し、持ち物を奪い取って獲物を物色するが、隙をつかれて女に長刀を奪われてしまう。長刀を向けられた山賊は手も足も出なくなり…。

タイトルの「瘦松」は、獲物のない時を指す山賊言葉で、反対語は「肥松」となります。さて、山賊の行く末はどうなるのでしょうか。山賊と女の掛け合いをお楽しみ下さい。

狂言

文荷

ふみにない

太郎冠者と次郎冠者は、主人から少人(稚児)に宛てた恋文を届けるよう命じられる。二人は道々文を押し付け合うが、なかなか進まない。文を竹竿に結び二人で担ぐことにする。能『恋重荷』の一節を謡いながら運んでいくと、何故か文が重く感じられる。どうしても中身が気になると、二人は文を開けてしまい…。

能『恋重荷』をパロディにした狂言です。太郎冠者・次郎冠者が息を合わせて文を担ぐ場面は、小気味よい掛け合いに加え謡曲をも取り込み、興味あふれる内容になっています。

主な出演者の紹介



野村 万作

のむら まんさく

1931年生。重要無形文化財各個指定保持者(人間国宝)、文化功労者。日本芸術院会員。2023年文化勲章を受章。祖父・故初世野村萬斎及び父・故六世野村万蔵に師事。3歳で初舞台。早稲田大学文学部卒業。「万作の会」主宰。軽妙洒脱かつ品格ある芸で国内外で狂言普及に貢献。ハワイ大・ワシントン大では客員教授を務める。芸術祭大賞、紀伊國屋演劇賞、日本芸術院賞、紫綬褒章、坪内逍遙大賞、朝日賞、中日文化賞、ニューヨーク・ジャパソサエティ賞等受賞多数。2024年度NHK放送文化賞受賞。早稲田大学芸術功労者、練馬区名誉区民。『月に憑かれたピエロ』『子午線の祀り』『法螺侍』『敦一山月記・名人伝一』等、狂言師として新たな試みにもしばしば取り組み、現在に至る狂言隆盛の礎を築く。後進の指導にも尽力。著書に『狂言を生きる』(朝日出版社)等。練馬文化センター名誉館長。2025年、記録映画「六つの顔」公開。



野村 萬斎

のむら まんさい

1966年生。祖父・故六世野村万蔵及び父・野村万作に師事。重要無形文化財総合指定者。3歳で初舞台。東京芸術大学卒業。「狂言ござる乃座」主宰。国内外で多数の狂言・能公演に出演する一方、現代劇や映画・テレビドラマの主演、「敦一山月記・名人伝一」「マクベス」「子午線の祀り」「能狂言『鬼滅の刃』」「ハムレット」「能狂言『日出処の天子』」等古典の技法を駆使した作品の演出など、現在の日本の文化芸術を牽引するトップランナーのひとりとして幅広く活躍。1994年に文化庁芸術家在外研修制度により渡英。芸術祭新人賞・優秀賞、朝日舞台芸術賞、紀伊國屋演劇賞、毎日芸術賞千田是也賞、観世寿夫記念法政大学能楽賞、松尾芸能大賞等受賞多数。2024年度坪内逍遙大賞を受賞。石川県立音楽堂芸術監督、東京芸術大学・日本大学芸術学部客員教授。(公社)全国公立文化施設協会会長。



野村 裕基

のむら ゆうき

1999年生。野村萬斎の長男。祖父・野村万作及び父に師事。慶応義塾大学法学部卒業。「狂言アイデアの会」主宰。能楽協会会員。3歳の時『鞆猿』で初舞台以来、国内外を問わず多数の舞台に出演。『三番叟』『奈須与市語』『釣狐』を既に披く。狂言師として伝統芸術の骨格を守りつつ狂言の魅力を探求し、舞台『ハムレット』(野村萬斎演出)や「能狂言『鬼滅の刃』」等、新たな試みでも活躍する。朝日カルチャーセンター狂言クラス、早稲田大学・東京大学・成城大学の狂言サークルを指導。



石田 幸雄

いしだ ゆきお

1949年生。野村万作に師事。重要無形文化財総合指定者。すでに数多くの優れた舞台歴を持つ「万作の会」の重鎮。『三番叟』『釣狐』『花子』等の大曲を既に披演し、国内外で狂言・能公演に多数参加、普及に貢献している。2006年「雙ノ会」で芸術祭大賞、2011年観世寿夫記念法政大学能楽賞受賞。大胆かつ緻密な演技で、古典はもとより『敦一山月記・名人伝一』『国盗人』(野村萬斎演出)など新しい試みの舞台でも存在感を見せる。2023年より「狂言師『石田幸雄』のソロ活動」で一人舞台にも取り組む。普及公演での的確な解説にも定評がある。

令和8年度

笑いの芸術 野村万作・萬斎狂言公演 プレセミナー

日時

令和8年 **10月3日(土)**
15:00 ~ 16:00 (開場14:30)

会場

東京エレクトロンホール宮城
6階601大会議室

講師

万作の会 **石田 幸雄**

上演される演目の内容や狂言の歴史等について知識を深め、日本の古典芸能に親しんでいただくことを目的としたセミナーです。

受講料

■全席自由 **500円(税込み)**

■受講定員 / 100名程度(先着順)

■募集期間 / 令和8年6月26日(金) ~ 定員になり次第受付終了

■申込方法 / 東京エレクトロンホール宮城 窓口のみでの販売(受講券発行)